

# Our Life 116号

* 内 容 *	➤ 調査及び居場所活動検証訪問を「第3回共創社会研究会」で報告……………P.1
	➤ 「居場所ってなに? その意識と実態調査」1,443枚の単純集計から…………… P.2
	➤ 「居場所活動検証訪問」7か所から見えたものは…………… P.3
	➤ 第3回公開型研修会のご案内/事務局日誌拝見……………P.4

## 調査及び居場所訪問検証活動を「第3回共創社会研究会」で報告

平成29年度ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ自動車(株)ハイブリッド基金により、「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態調査把握事業」実施に当たり、「共創社会研究会」(16名構成)を設置した。9月9日に「第1回研究会」を開き、研究会の方向性を確認し、その後、第2回を11月11日に開催した。ここでは、「居場所ってなに? その意識と実態調査」実施状況や、最近開所された県内7か所の「居場所活動検証訪問」計画説明や、「公開型研修会」から浮き彫りとなった「居場所」について議論し合った。1月13日(土)、静岡県総合社会福祉会館で開催した「第3回研究会」は、(1)調査研究事業「居場所ってなに? その意識と実態調査」単純集計結果概要報告、(2)「居場所活動検証訪問」経過報告、(3)「福祉コミュニティ再構築における地域ぐるみの居場所の提言報告書」作成説明等を受けて意見を交わした。

「調査研究事業」に関しては、この調査活動に関わった委員の立場から、「地区住民に協力を呼びかけた。言えば協力はしてくれるが、まだまだ、住民主体のこととしての関心は薄く、他力本願の人が多しと感じた」「地域で居場所を実施する場合、“食”を入れた居場所は集まる」、また、「バブル期は、自治会不要説であったが、志縁から社縁に市民の動きがあるように感じる」「行政の関わり方の必要性」「企業人は、退職後、なかなか頭脳集団の肩書が落ちない 地域に顔を出さないプライド意識が働く」「いかに、多様なニーズに居場所づくりを取り組むか」「優しいイーダ-には集まるが、厳しいと集まらない傾向にあるのか」などの意見があった。

12月中旬から取り組んでいる「居場所活動検証訪問」は、7か所のうち、6か所の訪問が終わった状況を報告した後の論議では、「居場所を立ち上げた思い、今の町内会や自治会に託したいことがいろいろある。」「数年前に助け合いに積極的な自治会長がいたが、地域の役員が交代すると理解に差が出てくる。」「居場所の取り組みは、防災につなげていきたい。」「価値観の多様化 本音をなかなか語れない。」などの意見が紹介された。

最終回の第4回研究会は、3月10日(土)静岡県総合社会福祉会館において、本事業の総括を行う。



## 尊い 1,443 枚の調査票をもとに

### 「居場所ってなに？ その意識と実態調査」いよいよ単純集計から考察へ

22 年目の本会「調査研究活動」は、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業「一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」を課題に取り組んでいる。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、既存の「居場所」の現状を整理し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りになった内容をもとに、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質し、「真の居場所」の開拓と共に、その「地域の担い手」を検証することとしている。調査依頼（実施期間）を9月25日～10月25日まで実施。

10月上旬から、本会役員4名と、常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」会員8名の全面的な協力を得て、回答いただいた、1,443枚の個票の入力作業が終了。その後「若者発“居場所”あり方研究会」の河野、村里両氏による入力後の単純集計作業が1月13日までに整った。

今後、2月上旬までに分析・考察が行われ、3月4日の第3回公開型研修会までに、公表・最終報告をする運びとしている。

今回の調査項目は30項目。考察は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域参加の動向、(7)提言（自由意見）の7つの柱立てを以て、「報告書」にまとめることとしている。

現在までの単純集計において、明らかになった概要をここに紹介すると……

基本属性では、回答性別では、男性（40%）、女性（60%）、年代別では、60代（23%）、70代（18%）、20代（13%）、40代（13%）となっている。職業別にみると、無職（18%）、大学生等（17%）、会社員（15%）、主婦（14%）、居住形態別では、持ち家（85%）と多い。居住年数別では、30年以上（40%）、30年未満（19%）、20年未満（13%）。居住地域別では、街部（29%）、新興住宅地（26%）、農村部（19%）、山間部（11%）、海浜部（9%）同居家族形態では、親と子どもだけの家族（44%）、祖父母など同居の大家族（29%）、夫婦だけの家族（21%）、単身世帯（8%）と、基本属性から見ると、ある程度それぞれの領域にまたがった回答となっている。

### ● 各設問の「単純集計」から見えているポイントを挙げると……

1. 地域での暮らし……不安 50%（主な内容：災害、健康、家事、ご近所福祉、社会の仕組）
2. 地域活動への関心……あり 72%、なし 27% \*なし3割近い
3. どのような地域活動に関心があるか…「災害・防災」「地域コミュニティ」「福祉ボランティア」
4. 今の地域に住み続ける……わからない（39%） \*約40%がわからないの回答
5. 地域福祉活動について……わからない（40%）
6. 地域活動拠点はあるか……わからない（30%）
7. 福祉に関心ある地域か……わからない（30%）
8. 相談し合える地域か……わからない（30%）
9. 支え合いの体制のある地域か…わからない（20%）
10. 支え合いの環境設定は…
  - ① 気軽に参加できる環境でなければならない
  - ② 行動を共にする仲間がいる
  - ③ 生活と就労のバランス
  - ④ 経済とボランティアの成り立ちの問題
11. 望ましい地域の寄り合い処…
  - ① 語らい・思いが自由 ② 拘束的でない ③ 趣味を共有する
  - ④ コミュニティカフェ～食を伴う～
12. 支え合いの必要性……必要（90%）

→ \*福祉活動を「見える化」する工夫必要



## 「居場所活動検証訪問活動」から、これからの“居場所”を考える

平成29年度「ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ自動車（株）ハイブリッド基金助成事業」として「福祉コミュニティ再構築と共助による“地域ぐるみの支え合い”の検証」をテーマに、「共創社会研究会の設置及び研究協議」「公開型研修会による検証研修」「居場所ってなに？ その意識と実態調査」と共に、「居場所活動検証訪問」に取り組むこととした。

今日、「真の居場所」は、本来家庭にあるはずであるが、弱体化した家庭機能を地域がいかに家庭機能化していくことができるか、とりわけ、各地で、様々な地域課題をもとに取り組まれている「居場所」のうち、比較的、最近開所又は開所のために検討している、県内7か所（①東部：住民とコミュニティ組織が協働での取り組み、②東部：自宅開放型から地域活性化に向けた取り組み、③中部：町内会・自治会を基盤とした取り組み、④中部：当事者的視点からの取り組み、⑤中部：施設機能の社会化の取り組み、⑥西部：障がい者支援と地域拠点の取り組み、⑦西部：居場所立ち上げ検討協議の取り組み）に直接出向き、状況把握に努めている。

### ● 主な検証訪問内容

①団体・施設等を取り巻く地域環境と課題、②開設のねらい（動機）、③開設後の地域の反響、④参加者（利用者）の声、⑤団体・施設等の手応え、⑥今後の発展性と課題（「協働」「運営資金」「社会資源の活用」「啓発」…etc.）

### ● 具体的検証訪問会場

No.	研修先	訪問日時
1	焼津市 長者の森「カフェコラレ」	12月24日（日）11:00～14:00
2	掛川市 NPO 法人 風の家	12月26日（火）10:00～14:00
3	菊川市 市営団地 * これから、社協、民生委員、地域住民等により、居場所を立ち上げようとしている経過を学ぶ	12月26日（木）10:00～ 民生委員、団地関係者、社協関係者会議に同席し、これまでの経過とこれからを学ぶ
4	裾野市 千福が丘アートサロン	01月05日（金）10:00～14:00
5	焼津市 北川原公会堂内 「いかすい北川原」(港第14自治会第12町内会運営主体)	毎週1～3週は火曜 10:00～15:00 第4週日曜日（但し、地域行事に振り替え有）
6	藤枝市 ほっとな居場所輪笑	01月12日（金）10:00～14:00
7	沼津市 県営原団地 ヌマツハラ県'Sルーム	01月19日（金）10:00～12:00

### ● これまでの訪問で把握できた主な点は…

#### A. 施設機能の地域開放、専門性と市民性の協働

- (1) 共創社会の創造に向け、いかに地域住民に「見える化」していくか
- (2) 専門性と地域資源の有効活用

#### B. 障がい者との共生社会の構築、NPO 法人の取り組み、空家開拓

- (1) 長年、福祉領域に従事されてきた関係者が、新たに市民主体の視点で、障がい者の地域参加を具体化。
- (2) 理論と実践をいかに融合していくかを、市民の立場に立って、専門性につなぐ実践活動の展開

#### C. 集合住宅（団地）内の居場所立ち上げ、民生委員活動、生活支援コーディネーター機能

- (1) 自治会、民生委員、住民、社協の連携による立ち上げ
- (2) 住民が、積極的に居場所立ち上げに関わる工夫

#### D. 町内会事業の位置づけ、公会堂の有効活用、新興住宅地化の世代間交流

- (1) さらなる町内会役員の意識改革（1期1年役員交代の継続性）の必要性
- (2) 地区住民に、あらためて「居場所」の必要性和運営協力の呼び掛け

#### E. 自宅開放型、趣味や特技を通しての生きがい、地域活性化

- (1) 「居場所」を運営される構成メンバー一人ひとりの、地域を思う熱い気持ちが伝わる
- (2) 「趣味」を共有する仲間づくりと、その「趣味」を通じての地域づくりへのプロセス
- (3) 「地域の“文化”と“福祉”に貢献するボランティア一般団体」そのもの

## 事務局日誌拝見 (11/25~1/31)

- 11/25 第 187 回委員会開催 第 16 回静岡県福祉文化研究セミナー開催 (参加者 21 名)  
11/26 第 16 回静岡県福祉文化研究セミナー事後展開 (ワークショップ資料化)  
11/27 Our Life 115 号編集作業  
11/28 調査データ入力作業状況打診/関係機関・団体との連絡調整  
11/30 ふじのくに未来財団活動報告会出席  
12/01 Our Life 115 号発送作業実施  
12/02 第 4 回港地域ささえあい講座協力支援/第 3 回共創社会研究会開催通知送付  
12/08 実践活動検証訪問依頼文書送付/調査データ入力作業状況打診  
12/13 菊川市社会福祉協議会との連絡調整 (居場所立ち上げ協議出席検討)  
12/14 研究会委員の実践活動検証訪問参加希望とりまとめ/調査データ入力作業状況打診  
12/21 調査データ入力作業状況打診の結果, データ入力を完了した旨確認  
12/24 実践活動検証訪問① (焼津市・長者の森 カフェコラレ) /調査データ入力作業状況打診  
12/26 実践活動検証訪問② (掛川市・NPO 法人風の家)  
12/28 実践活動検証訪問③ (菊川市・市営団地内居場所設置協議同席)  
12/29 調査データ入力協力学生への礼状発送  
01/05 実践活動検証訪問④ (裾野市・千福が丘アートサロン) /調査報告書作成検討作業  
01/07 実践活動検証訪問⑤ (焼津市・いかずい北川原)  
01/08 第 3 回共創社会研究会関連資料作成作業/第 3 回共創社会研究事務的手続き  
01/12 実践活動検証訪問⑥ (藤枝市・輪笑) /調査は, 単純集計確認, その後クロス集計に入る  
01/13 第 188 回委員会開催 第 3 回共創社会研究会開催  
01/15 関係機関・団体への経過報告 (関連資料送付)  
01/19 実践活動検証訪問⑦ (沼津市・原団地内)  
01/20-30 Our Life 116 号編集作業実施 発送作業

### ＊「第 3 回公開型研修会 -あらためて, 今なぜ“居場所”か-」ご案内＊

- 期 日: 平成 30 年 3 月 4 日 (日) 13:30~16:30
- 会 場: 静岡県総合社会福祉会館 1 階 101 会議室 (〒420-8670 静岡市葵区駿府町 1-70)
- 内 容:
  - (1) 基調 (調査) 報告①「居場所ってなに? その意識と実態調査」から見えたものは何か
  - (2) 基調報告②「地域ぐるみの居場所をめざす」
  - (3) グループワーク「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

＊ 参加希望者は, 電話・FAX (T/F: 054-624-1924) 等で, 静岡福祉文化を考える会 平田厚まで

### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は, 阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成 8 年 9 月 1 日に発足し, 平成 29 年度に 22 年の節目を迎えました。平成 29 年度は新たな節目に向かい, 「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は, 「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと, さまざまな分野で活動している会員が, 身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費: 社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円
- ◇ 問い合わせ: 420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5  
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

### 編 集 後 記

9 月より取り組んできた「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 -ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言-」助成事業は, いよいよ総括の 3 月まで, あと 2 か月ほどになった。この 5 か月間, 常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」の支援のもとに, 22 年目の調査研究事業はまもなく公表の運びとなる。若者のパワーは「福祉を文化にする」大きな存在でもある。実に大きい。そろそろ, 平成 30 年度の活動の方向性を明らかにする時期。13 年前の「子ども」をスポットにはどうか。